

獨協医科大学病院だより

— Dokkyo Medical University Hospital News —

平成30年（2018年）

8月



第41号

バースセンターがオープンしました！

4月3日、センター棟4階にバースセンターがオープンしました。

バースセンターは、緊急時の対応ができる医療機関等において、正常経過の妊産婦のケアおよび出産を助産師が自立して行なう院内助産システムを元に開設されました。妊婦やご家族の多様なニーズに応え、安全・安心・そして快適な出産の場を提供することを目的としています。さらに、出産後の母子を対象に、育児への不安や身体への負担を軽減するための助産師による母乳育児相談や乳房ケア、沐浴指導など育児に関する相談など母親が体と心の休養ができる場の提供も目的としています。

当院のバースセンターは、出産から退院日までを過ごすLDR室（Labor:陣痛・Delivery：分娩・Recovery：回復）が2部屋と、産後のケアを提供する母子ケア室が2部屋あります。また、すこやかマミー（母親学級）やマタニティビクスを行うスタジオや妊婦健診などを行う診察室、母子健診室、カンファレンス室等があります。廊下を挟んだ中庭にはベンチと草木があり、病院の中にながら青空を眺めることのできる快適な癒しの空間となっています。

バースセンターでは、ローリスクの妊婦を対象とし、助産師が妊婦健診から関わり出産に向けての心の準備や身体作りを行い、医療介入を最小限とした家庭的な雰囲気の中、ご家族で新しい命の誕生を迎えられるようサポートさせていただきます。

バースセンターの入口を開けると、正面の壁面には木とつばめの絵がお出迎えします。つばめは縁起のいい鳥（子宝・安産）とされており、自然な出産を目指し、「お母さんと赤ちゃん」が過ごしやすい場所でありますようにとの願いを込めました。

また、助産師がローリスクの妊産婦を担当することで、産科医師の負担軽減に繋がることが期待できます。チーム医療を充実させ、周産期医療の益々の発展に寄与できますよう努力してまいります。



LDR（Labor:陣痛・Delivery：分娩・Recovery：回復）室



ロビー（木とつばめ）



出産後はお二人で
フランス料理のフルコース！

お問い合わせ先：0282-87-2218 産科病棟 バースセンタースタッフまで

MRI 検査室（教育医療棟 1 階）のご紹介

2015年5月に獨協医科大学病院 教育医療棟 1 階に最新のMRI装置を5台（1.5テスラ 2台、3.0テスラ 3台）設置したMRI検査室がオープンしてから3年が過ぎました。5台の装置は順調な稼働を続けています。以前の検査室では4台の装置で一月当たり約1,300件の検査を行っていましたが、新しい検査室では5台体制になったことから、一月あたり約1,550件と250件も多く検査を行っています。そのため、検査予約待ち日数も平均30日だったものが、平均15日に短縮できました。

MRI装置は磁石と電波を使用しているためCTと違い被ばくをしない安全な検査ですが、一般的には検査時間が長く、金属類の持ち込みが不可能な検査です。しかし脳梗塞や脳腫瘍、血管異常などの他、脊髄や筋肉、関節疾患を見つけ出すのに効果を発揮します。また、造影剤を使用しなくても腹部、四肢などの血管を描出することが可能となってきました。

MRI装置の性能はテスラ（T）という単位で表される磁石の強さや、コンピューターの処理能力などに大きく依存します。現在使用しているSIEMENS社製 MAGNETOM Skyra 3.0T & Aera 1.5T は、導入後3年経った今も最先端の装置であり、高画質で診断価値の高い画像を安定して提供することで、病気の早期発見、早期治療に貢献しています。

また、MRI検査は検査時間が長いことが欠点の一つですが、現在の装置は新技術により短時間撮像が可能となりました。頭部ですと今まで約30分近くかかっていた検査時間が、現在の装置では約20分程度で高画質な画像を得ることができ、患者さんの負担が軽くなっています。

その他にMRI装置のトンネルの直径が60cmから70cmと広がり、トンネルの長さが198cmから173cmと短くなったことにより、開放的な検査環境を実現しました。圧迫感が軽くなることは、患者さんの不安を和らげることに繋がります。

またMRI装置は検査中に工事現場の様な大きな音が発生しますが、これも新しい装置では今までよりも静かになっています。

これからも豊かな情報を提供し、患者さんの快適な検査環境を工夫するMRI検査室にどうぞご期待ください。



New MRI装置 SIEMENS Skyra 3.0T



造影剤を用いずに得られた大動脈と腎動脈の画像

～病院へのお手紙に関するご回答～

家族が入院しお世話になっております。

売店をよく利用させていただいておりますが、営業時間がもう少し長くなると助かります。

(回答)

貴重なご意見ありがとうございます。

5月7日から、売店の営業時間を平日 7:30～21:00 土曜・祝日 7:30～20:00 と延長いたしました。



暑くなってきました！！ しっかりと水分補給をしましょう！！

人は1日に2000～2500mLの水分を体内から失います。
このうち、飲料水として摂り入れるのは、**800～1300mL**とされます。

基本的には、**お茶か水**を飲みましょう。
熱中症予防の水分補給としては、
少量の**塩分**と**糖質**を含んだ飲料が推奨されています。
(市販のスポーツドリンクのほとんどがこれに当てはまります。)

1日の水分排泄量(mL)

尿	1000～1500
便	900
生理的に失われる水分	200
合計	2000～2500

1日の水分摂取量(mL)

飲料水	800～1300
食物中の水分	1000
体内での代謝水	200
合計	2000～2500



水分補給のポイント

①こまめに

1度にたくさんの水分を摂取しても、上手く吸収する事ができません。
こまめに少しずつ水分補給をしましょう。

②意識的に

「のどが渴いた」と感じてからの水分補給では、体の水分量が
足りなくなることがあります。
とくに運動時は意識的に水分補給が必要です。



看護師募集

○当院では看護師を募集しております。

詳細につきましては、下記窓口までお気軽にお問合わせください。

〒321-0293

栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880

獨協医科大学病院 看護部

受付時間

平 日 9:00～16:00

土曜日 9:00～14:00 (第3土除く)

TEL : 0282-87-2395

FAX : 0282-87-2382



新人教育

獨協医科大学病院だより第41号

〒321-0293

栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880番地

TEL 0282-86-1111 (代表) FAX 0282-86-4775

当広報誌は当院ホームページよりご覧いただけます。

獨協医大病院 検索

<http://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/>

発行年月日／平成30年8月1日

編集・発行／獨協医科大学病院広報誌委員会

印刷／(株)松井ピ・テ・オ・印刷